

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【数学科】

1. 対象 肢体不自由 中学部1年生

「自立活動」を重点的に取り入れる教育課程で学習。上下肢に麻痺、車椅子使用。簡単な言葉で要求や依頼をしたり、簡単な話を理解したりすることができる。提示された物に手を伸ばしたり、視線を向けたりにして選択したものを伝えることができる。新しい場所や活動など見通しが持てない場面や、突然の大きな音などが苦手で、不安定になることがあるが、クールダウンしたり本人が納得したりすることで落ち着いて活動に取り組める。

2. 単元名 「 大きさ比べをやろう（大きい方はどっち？） 」(全10時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・ 2つの物の大きさの違いに注目し、大きい物と小さい物の大きさの違いに気付くことができる。
思考力, 判断力, 表現力等	・ 物を大小で分けることに興味を持ち、大きい物と小さい物を見比べて、大きい物に触ったり、「大きい」と言ったりすることができる。
学びに向かう力, 人間性等	・ 物を大小で分けることが分かり、自分から大きい物を触って選ぶことができる。

4. 本時の目標

・ 大小の異なる2つの物を見比べて、大きい物を選択することができる。(思考力・判断力・表現力)

5. 授業展開【(本時)・単元】

解決したい課題や問い
大きい方はどっち？

考えるための材料	考えるための材料	考えるための材料
「ぞうくんのさんぼ」の本に登場する動物の絵が描かれた、大きさの違いが分かる箱を用意する。	大きい熊に扮した教師が「大きいお弁当を作ってほしい。」と依頼する。	大小の絵カード(おにぎり、人参、トマト、バナナ) 大きな方の絵カードがぴったり入る大きな弁当箱
想定される活動		
「ぞうくんの次はかばくんかな。」「ぞうくんが一番大きいな。」	「大きいお弁当箱に大きい物を入れるんだな。」「熊さんに喜んでほしいな。」	「大きいおにぎりはこっちかな。」「大きいお弁当箱に入るとぴったり。」「カタカタしないぞ。」

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）
・ 大小の絵カードをよく見比べる。 ・ 「大きい方はこっちかな。」と触れて遊ぶ。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）
・ タブレット端末の画面で大小の絵から大きい方に触れて好きな曲を流す。 ・ 大きい紙を選び、夢中で線を描く姿。